

様式第3号(第12条関係)

会 議 録

会 議 の 名 称	令和5年度 第2回吉川市児童福祉審議会
開 催 日 時	令和5年11月16日(木) 午後6時00分から午後8時00分まで
開 催 場 所	吉川市役所第301・302会議室
出席委員(者)氏名	田口賢太郎委員、木村ミツ委員、吉岡弘美委員、会田亮平委員 荒井一美委員、伴野忠委員、熊木崇人委員、須田重昭委員
欠席委員(者)氏名	無
担当課職員職氏名	こども福祉部副部長兼地域福祉課長 岡田啓司 こども福祉部子育て支援課長 桜井健一 こども福祉部子育て支援課課長補佐 飯野耕太郎 こども福祉部障がい福祉課長 程田浩司 こども福祉部保育幼稚園課課長 島村善和 健康長寿部健康増進課母子保健係長 稲見絹子 こども福祉部子育て支援課子育て支援係主任 中村雄貴 こども福祉部子育て支援課子育て支援係主事 佐久間有沙 こども福祉部子育て支援課子育て支援係主事 安藤大空 こども福祉部子育て支援課子育て支援係主事 菊名友有
会議次第と会議の公開 又は非公開の別	1 開 会 2 あいさつ 3 委員自己紹介・職員照会 4 会長選出 5 議事 (1) 吉川市児童福祉審議会について (2) 吉川市子ども・子育て支援事業計画について (3) 第3期吉川市子ども・子育て支援事業計画の策定について 6 その他 7 閉会 ※ すべて公開
非 公 開 の 理 由 (会議を非公開にした場合)	なし
傍 聴 者 の 数	なし
会 議 資 料 の 名 称	資料1 吉川市児童福祉審議会について 資料2 吉川市子ども・子育て支援事業計画について 資料3 第3期吉川市子ども・子育て支援事業計画の策定について
会 議 録 の 作 成 方 法	<input type="checkbox"/> 録音機器を使用した全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 録音機器を使用した要点記録 <input type="checkbox"/> 要点記録
会 議 録 確 認 指 定 者	木村委員、吉岡委員
そ の 他 の 必 要 事 項	

審議内容(発言者、発言内容、審議経過、決定事項等)

事務局

資料の確認

1. 開会
2. あいさつ
3. 委員自己紹介・職員照会
4. 会長選出

事務局一任との意見があったため、事務局から田口賢太郎委員を会長とする案を委員に示し、承認、選出された。

5. 議事

(1) 吉川市児童福祉審議会について

【関係資料】

資料1

(事務局から説明)

(質疑応答なし)

(2) 吉川市子ども・子育て支援事業計画について

【関係資料】

資料2

(事務局から説明)

(質疑応答)

田口委員

第1期計画では区域を3つとしていたが、第2期では区域を1つとしたことで何か問題はあったか。

事務局

市域が比較的狭いという当市の特徴があり、区域外でのサービス利用が稀ではないため、市としてのサービスの量を把握するには1区域としたほうが分かりやすいと認識している。

須田委員	吉川市は、人口は増加傾向であるが、児童の数は減少傾向にあるという認識で良いか。
事務局	第2期計画ではそのように見込んでいるが、吉川美南駅東口の区画整理による人口変化が見込まれていないため、今後については児童数が増加する可能性もある。
熊木委員	第2期計画の各年度の進捗確認を実施して、吉川市としての課題は見えたか。
事務局	未就学児の数がやや減少傾向にあるなかで、吉川美南駅東口の開発による増加も見込みながら、第3期計画ではどのように幼児教育や保育需要等の量に反映させていくかが課題である。
荒井委員	第1期計画策定から見ると、もうすぐ10年が経過する。計画策定当初から大きく変わったことは何か。例えば、外国籍の住民が増えていることを感じる。幼稚園や保育園、小学校で、外国籍の方に対する日本語教育の支援が行き届いているのだろうかと思うことがある。
事務局	義務教育後の若者支援の在り方を考える会議でも外国籍の方の日本語学習支援は課題として出た。幼児期、就学期の児童についても今後必要な支援等を検討していく。
	<p align="center">(3) 第3期吉川市子ども・子育て支援事業計画の策定について</p>
	<p>【関係資料】</p>
	<p>資料3</p>
	<p>(事務局から説明)</p>
	<p>(質疑応答)</p>

会田委員	ニーズ調査に関して、対象者が就学前児童の保護者、小学生児童の保護者となっているが、子どもの意見はどう取り入れるのか。
事務局	子どもの意見をどのように聞き、反映させるかは今後検討していく。
木村委員	ニーズ調査の調査項目は、国や県の指針に沿って実施して、吉川市の実態は把握できるか。
事務局	第2期計画策定時も国や県の指針に基づき調査を実施した。量の見込みの算定時には、当市の人口推計等も用いるため、吉川市の実態を捉えながら行えていると考える。第3期計画についても、吉川市のまちづくりや人口推計を反映し、策定を行う。
吉岡委員	第3期計画の策定時のニーズ調査回答は書面か。回答率を向上させるため、回答方法にインターネットを加えてはどうか。
事務局	書面での回答を想定している。回答しやすい形式を検討したり、礼状兼督促状を発送する等しながら回答率の向上に努める。
熊木委員	ニーズ調査に自由意見記載は可能か。
事務局	ニーズ調査で把握すべき事項は、幼児教育、保育、子育て支援サービス等の利用意向である。自由意見の記述欄も設ける予定である。
田口委員	第3期計画策定について、庁内において計画策定に関わる部署はどのくらいあるか。
事務局	全ての部署が策定に関わる。

田口委員	ニーズ調査について、調査対象は子育て家庭の保護者であるが、子育てに関連する企業からも意見聴取ができると良いかもしれない。
会田委員	ニーズ調査について、量の見込みが主目的であることは理解した。質についてはどのように考えるか。
事務局	ニーズ調査は国の指針でも量の確保が主としたものとなっているが、市としても質の向上については意識をしており、民間保育園主導のもと、研修会等を実施したり、市内全保育園の園長が月1回集まり、話し合いの場を持っている。保育分野については、質に関する調査の必要性を今後研究していく。
熊木委員	意見要望の調査と質の調査は差別化が難しいと思う。しかし、意見の吸い上げなしには見えてこないことがあると思う。ぜひ行政がリーダーシップをとりながら民間と協力して進めていただきたい。
荒井委員	第3期計画策定に当たっては、支援項目を絞り重点的に支援を実施してはどうか。
事務局	重点を置く部分は整理が必要と認識している。
田口委員	ニーズに応じるだけでなく、吉川市が独自に設定する支援項目案はあるか
事務局	発達等が気になる児童に対する配慮は、他市町村に比べ進めていると認識している。
事務局	当市は子どもの貧困対策推進計画も他市町村に先駆け策定し、様々な事業を展開している。

須田委員	計画の進捗確認をするに当たっては、数字目標という大きな視点だけでなく、個々のケースを見る視点も重要と感じる。目標数字を追うだけでは、大切な視点が抜けてしまうのではないか。
事務局	第1回審議会でも実績に用いる数字の指摘は委員からいただいた。今後実績に用いる数字については研究をしていく。個々のケースを見る視点は、担当部署が日々の業務の中で実施しているが、数値化することは難しい。
田口委員	吉川市子ども・子育て支援事業計画の位置づけについて、その他個別計画との整合性について説明を。
事務局	吉川市まち・ひと・しごと創生総合戦略内で子どもの笑顔と活気でまちを満たすといった基本目標を掲げているので、その目標も念頭に吉川市子ども・子育て支援事業計画を策定した。
会田委員	計画骨子案について、委員個々が確認する時間を十分に設けてほしい。
事務局	確認期間を設け、その後審議いただく場を設ける予定である。
伴野委員	第1期、第2期計画が進んできたなかで、吉川市の子育て支援に関する課題は何か。
事務局	量については、一部不充足がある。
伴野委員	量以外の課題はあるか。
事務局	様々な事業を実施するなかで個々の課題は存在する。本計画は、その各事業を支えるものとして策定している。

須田委員	保育待機児童は容易に解消できるものではないのか。
事務局	国の基準で、保育施設の面積や保育士の人数によって保育可能人数が決まる。民間園にも可能な限りの受け入れ協力をいただいているが、待機児童が発生している。児童数の推計も減少がみられるなかで、吉川美南駅東口の開発も考慮する必要がある、施設整備は慎重に進める必要がある。
会田委員	保育分野以外の課題や対応は。
事務局	例えば、ひとり親家庭への支援については、孤立しないような取組を実施してきた。引き続き保護者だけでなく、子どもに対しても支援を継続する。
会田委員	重点施策は明確に目標の数字が記載されているが、理念に基づく施策はどのように評価していくのか。
事務局	進捗状況の報告において数字を示せる事業は示していく。
田口委員	第2期計画の進行中に、新型コロナウイルスの感染拡大という不測の事態が発生したが、計画に記載のない対応はあったか。
事務局	地域子育て支援拠点事業では、感染防止策の実施や人数制限の設定等、第2期計画策定当初には想定していない対応をした。 妊婦健診や、乳幼児健診については感染の不安から受診を控える動きが見られたため、オンラインや電話での相談等を実施し、必要なところに支援を届けるための対応をした。

6. その他

児童福祉審議会の今後の予定について、第3回審議会は、令和6年3月頃を予定している。

7. 閉会

以上、会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名する。

令和5年12月27日

署名委員 木村 ミツ (自署) 署名委員 吉岡 弘美 (自署)